

土曜日から三料のはり業業気分となり
十八日

会社側には西度の重役會議を因りその結果三料の作
業短縮を實行するに決定

十九日より短縮を、實行する

十九日の會議の結果を十九日に回答する筈なりしが十九日は
全職工が急業を以て機軸の運轉不能状態を知ら十九日午
後二時職工代表の三料の暗^作短縮を申請す 会社代表
の會見中全職工二名の名は市一印刷工場に入集合し
二邊、説合を始ると氣勢を握りしめしが代表が會見の報
先、演説を為すや大勢罷業に決す

十九日

午前十時三十分職工側代表高田幸松 石倉松次官地を以て
七名は精美堂工場に大橋社を訪問是重役立會の上會
見次の如き交渉案を此工作業短縮の撤回方を要する

従来鑄造科十時勤務を此時同に短縮し鉄工科砲業

割増三割を二割に減すれば經費約二十四年間の節約とな

るを以て急業の撤回を望む之れに對し会社は絶対拒絶

の反對を声明す 尚会社側は此般の總念と異なり今迄

の如く来りし此の態度に飽き足らざるが故に断乎大の態度に

あり従前の總念の體裁を一掃する所せよとて各重役は徹

度協議の上 臨時休業するに決定二十日午前十時之れ

ち工場入りし揚まつ一方職工側は徹底的抗争を繰り出す

に決し十九日は總罷業状態となり 最後の交渉は列れ被